古文単語 活用形から見出し語へ ①

高校／波線の語を手がかりに、本文の形を引ける形にもどす

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

――線の語を、見出し語（終止形）にもどし、右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きなさい。
――線の語のすぐ下に続く語に、波線（〜〜）が引いてあります。この語を手がかりに活用形を決めます。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段

形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 「内侍所の御鈴の音は、めでたく優なるものなり。」
（徒然草・第二十三段）

見出し語	活用の種類	活用形

2 この国の博士どもの書けるものも、いにしへのは、あはれなる事多かり。（徒然草・第十三段）

見出し語	活用の種類	活用形

3 「あの男こち寄れ」と召しければ、かしこまりて、勾欄のつらに参りたりければ、……（更級日記）

見出し語	活用の種類	活用形

4 はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方がた、めざましきものにおとしめ嫉みたまふ。
（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

5 南面に下ろして、母君も、とみにえものものたまはず。
（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

6 ともに行く人々も、いといみじく物ゆかしげなるはいとほしけれど、物見て何にかはせむ。（更級日記）

見出し語	活用の種類	活用形

7 たやすくうち出でむも如何とためらひけるを、……
（徒然草・第二百三十一段）

見出し語	活用の種類	活用形

8 木の葉にうづもるる筧の雫ならでは、つゆおとなふものなし。（徒然草・第十一段）

見出し語	活用の種類	活用形

9 このごろの御気色を見たてまつる上人、女房などは、かたはらいたしと聞きけり。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

10 あやしくよそへきこえつべき心地なむする。
（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 活用形から見出し語へ ②

高校／本文の形を一覧表で引ける形にもどす

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

――線の語を、単語一覧表で引ける形（見出し語＝終止形）にもどし、活用の種類と活用形を書きなさい。
右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きます。
活用形は、――線の語のすぐ下に続く語（助動詞・助詞・体言など）を手がかりに決めます。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段

形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 それを見れば、三寸ばかりなる人いとうつくしうて居たり。（竹取物語）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

2 花は盛りに、月はくまなきをのみ見るものかは。
（徒然草・第百三十七段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

3 いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひける
なかに、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて
時めきたまふありけり。（源氏物語・桐壺）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

4 やがてかけこもらましかば、くちをしからまし。
（徒然草・第三十二段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

5 「我こそ死なめ。」とて、泣きののしることいと堪へがたげなり。（竹取物語）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

6 東西は海ちかくていとおもしろし。夕霧たちわたりて、いみじうをかしければ（更級日記）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

7 つれづれなるままに、日ぐらし硯に向ひて、心にうつりゆくよしなしごとを（徒然草・序段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

8 上達部、上人なども、あいなく目を側めつつ
（源氏物語・桐壺）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

9 次に医術をならふべし。身を養ひ人を助け、忠孝のつとめも、医にあらずばあるべからず。
（徒然草・第百二十二段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

10 因幡の国に、何の入道とかやいふものの女、かたちよしと聞きて、人あまたいひわたりけれども
（徒然草・第四十段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 活用形から見出し語へ ③

高校／活用表を見ずに、本文の形を引ける形にもどす

名前 _____

日付 _____

――線の語を、見出し語（終止形）にもどし、右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きなさい。
この紙には活用表がありません。習った活用表を思い出し、語尾の形と、――線の語の下に続く語を手がかりに決めます。
――線の語のすぐ下が「。」で文が終わるときは、終止形です。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

1 用ありて行きたりとも、その事果てなば疾く帰るべし。久しく居たる、いとむつかし。
（徒然草・第百七十段）

見出し語	活用の種類	活用形

2 その子、孫までは、はふれにたれど、なほなまめかし。（徒然草・第一段）

見出し語	活用の種類	活用形

3 これを学ばむをば、いたづらなる人といふべからず。
（徒然草・第百二十二段）

見出し語	活用の種類	活用形

4 さがなき童どもの仕りける、奇怪に候ことなり。
（徒然草・第二百三十六段）

見出し語	活用の種類	活用形

5 六位の外記康綱、衣被の女房をかたらひて、かの宣命をもたせて、しのびやかに奉らせけり。
（徒然草・第百一段）

見出し語	活用の種類	活用形

6 次ざまの人は、あからさまに立ち出でても、興ありつることとて、息もつぎあへず語り興ずるぞかし。
（徒然草・第五十六段）

見出し語	活用の種類	活用形

7 八重桜は異様のものなり。いとこちたくねぢけたり。植ゑずともありなむ。（徒然草・第百三十九段）

見出し語	活用の種類	活用形

8 「子安貝とらんと思しめさば、たばかり申さん。」
（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

9 公には、「筑紫の国に湯あみにまからん。」
（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

10 その後翁・嫗、血の涙を流してまどへどかひなし。
（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 活用形から見出し語へ ④

高校／下二段・ラ変・カリ活用・ウ音便もまぜて、もどす

名前 _____

日付 _____

——線の語を、見出し語（終止形）にもどし、右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きなさい。
活用表には、下二段活用・ラ行変格活用が入っています。カリ活用や、ウ音便になった形も出てきます。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段
動詞下二段活用	エ段	エ段	ウ段	ウ段＋る	ウ段＋れ	エ段＋よ
動詞ラ行変格活用	ら	り	り	る	れ	れ

「から・かり・かる・かれ」「しから・しかり・しかる・しかれ」は、カリ活用（補助活用）の形。
形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 夕月夜のをかしきほどに出だし立てさせたまひて、やがてながめおはします。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

2 「親・君と申すとも、かくつきなきことをおほせたまふこと。」（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

3 露霜にしほたれて、所さだめず……（徒然草・第三段）

見出し語	活用の種類	活用形

4 かぐや姫のいはく、「なでふさることかしはべらん。」（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

5 われも人も、宿世のつたなかりければ、ありありてかく遥なる国になりにたり。（更級日記）

見出し語	活用の種類	活用形

6 唐めきたる名の聞きにくく、花も見なれぬなど、いとなつかしからず。（徒然草・第百三十九段）

見出し語	活用の種類	活用形

7 家にあり人に交はるとも、後世を願はむにかたかるべきかは。（徒然草・第五十八段）

見出し語	活用の種類	活用形

8 いとどこの世のものならず清らにおよすげたまへれば、いとゆゆしう思したり。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 活用形から見出し語へ ⑤

高校／本文から見出し語の形を探して、活用を答える

名前 _____

日付 _____

右の枠の見出し語が、左の本文の中で活用した形で出ています。その語を探して――線を引きなさい。
右の2つの枠に、左から順にその語の活用の種類・活用形を書きなさい。見出し語の活用形は本文に1か所だけです。
この紙にも活用表はありません。活用形は、その語のすぐ下に続く語を手がかりに決めます。
――線の語のすぐ下が「。」で文が終わるときは、終止形です。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

1 帝はた、ましてえ忍びあへたまはず、思し紛るる折もありつる昔のこと、とりかへしかなしく思さる。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形
かなし		

2 七つになりたまへば、読書始めなどせさせたまひて、世に知らず聡う賢くおはすれば、あまり恐ろしきまで御覧ず。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形
かしこし		

3 人皆退きて、まめならん人一人を荒籠に載せすゑて、綱をかまへて……（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形
まめなり		

4 この聖、声うちゆがみあらあらしくて、聖教のこまやかなる理、いと弁へずもやと思ひしに、……（徒然草・第百四十一段）

見出し語	活用の種類	活用形
こまやかなり		

5 偏に高き官位を望むも、次におろかなり。（徒然草・第三十八段）

見出し語	活用の種類	活用形
おろかなり		

6 かつをといふ魚は、かの境には双なきものにて、この頃もてなすものなり。（徒然草・第百十九段）

見出し語	活用の種類	活用形
もてなす		

7 ……心地にわづらひて、まかでなむとしたまふを、暇さらに許させたまはず。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形
わづらふ		

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます